

プロフィール（自己PR）

◆これまで30年以上にわたり、出版社や放送局などの報道機関で記者や編集者、ニュースデスクなどの仕事をしてきました。国の予算や税制、金融・証券、産業振興・規制、IT（情報技術）、自動車産業など主に経済分野を担当してきました。教育分野については、ITの利活用を除けばあまり取材したことはありません。ただ、いじめや虐待など子どもが犠牲になる事件にはいつも強い憤りを感じていました。自分の子や孫が就学する際に一番気がかりだったことも「いじめに遭うなよ」ということでした。

◆私自身はPTAなどの仕事をしたことはなく、学校教育の現場についてはほとんど知りません。中野区でも小中学校の統廃合が進められてきたことは知っていましたが、何校になったかは今回の応募を契機に調べました。いじめや虐待、貧困と学力の関係、多様性教育、IT利活用などに関してどのような調査や施策が講じられているかも区のHPで知りました。地域社会と一体となった取り組みも進んでいるようで、不勉強を恥じています。

◆では、自分は学校や地域社会の取り組みにどう貢献できるのか。これまでの仕事の中で、行政の政策立案プロセスや政治の議論、施策の運用と評価、なぜ成功あるいは失敗したかについて数多くのケースを見てきました。リスク管理やトラブル処理の経験もあります。現役を退いてからブランクがあり、学び直さなければならないことも多いですが、努力したいと思います。

◆なお、総務省の記者クラブに13年余り在籍していました。旧郵政省（情報通信・郵政）が主な担当でしたが、消防庁を含め旧自治省の関係者にもよく取材していました。詳しいとまでは言えませんが、地方自治について一定の理解はあります。また災害救助や防災・減災、人命にかかわる情報伝達は、放送局にとっても最大の使命であり、私自身天気部門の長をしていた経験もあって、一定の知識はあります。そういったことも学校教育の中で役立てられたらと思います。

教育委員になった際に取り組む課題（箇条書き）

※優先度の高いものから順に、3項目以内で記入してください。

1.（課題） いじめ・暴力問題など社会全体での取り組み強化 について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

- ◆コミュニティスクールの全区展開と運営の充実、地域住民の理解の醸成
- ◆フリースクールとの連携強化
- ◆虐待・非行等について児童相談所や警察等との連携強化
- ◆教員の負担を軽減する観点からも家庭や地域社会での役割分散化を検討

2.（課題） 生成AIを含めたIT教育の充実 について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

- ◆急速に進化しつつある生成AIの子どもたちへの浸透と影響について定期的に調査し、リテラシーのあり方について検討。SNSについても同様
- ◆生成AIの中でも学習成果が期待できるとされる分野——例えば英作文の添削、算数の音声による対話学習等——での利活用を保護者を交え検討
- ◆答案の採点や資料作成など教員の負担を軽減するためのAI活用を検討

3.（課題） 多様性と寛容を大切にする教育を充実 について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

- ◆性別・人種・国籍・文化等による差別をなくすため保護者を含め日常的に意識を徹底
- ◆特別支援学級・特別支援教室の拡充
- ◆外国籍の子どもが授業を受けやすくなるよう語学アプリなど環境整備
- ◆明治大学国際日本学部などと連携した体験学習の拡充

氏名 伊藤 哲

教育委員に応募する理由（横書きで記入してください）

10年以上前、「ハワイで出産する日本人が増えている」と政府内で話題になったことがあります。赤ちゃんは米国と日本の国籍を取得し、20歳（現在は22歳）までにどちらかを選べるからです。一方、日本の将来を憂い、子が海外に脱出しても生きていけるように育てる親も少なくありません。若い親たちにそんな不安を抱かせる背景には、高齢化の重しがあります。財政は年金・医療等に追われ、子育て・若者支援に乏しく、選挙年齢を下げて若者の意向が選挙結果に反映されているか疑問に感じることもあります。高齢者の一人として申し訳なく思います。何とか力になればと応募しました。些少の寄付等を行っています。限度があります。教育や地域社会の仕組みを変え一助になればと考えました。今のままでは、ヤングケアラーや子どもの貧困はさらに深刻化していくでしょう。子どもたちが教育を受ける権利は絶対に守らなければいけないと思います。